

東京大学 文書館ニュース

The University of Tokyo Archives Newsletter

vol. 74, Mar. 2025

安田講堂竣工 100 年、濱尾新元総長没後 100 年



左) F0004/A/08/51「東京帝国大学大講堂新築記念 大正十四年七月〔記念絵葉書〕」より
右) F0025/S05/0224「写真〔明治27年7月政治学科卒業生・教員集合写真〕」より濱尾

=====

2025 年は、安田講堂竣工 100 年であり（1925 年 7 月）、第 3 代・第 8 代帝国大学総長を務めた濱尾新の没後 100 年でもあります（同年 9 月）。新築の講堂で、濱尾の葬儀が執り行われました。現在、安田講堂南東には、昭和 7（1932）年に制作された銅像があります。戦時下の金属供出を免れ、今日も静かに講堂を見守っています。



Contents

- 2 モノ・ヒトのフィールドから
—着任によせて—

寺島 宏貴

- 4 特定歴史公文書等の劣化調査

秋山 淳子

- 5 文書館を訪ねて

柳楽 明久

- 6 業務日誌（抄）
（2024年8月～2025年1月）

- 7 資料の公開について

- 8 文書館トピックス
EASTICA・香港大学共同アーキビスト
養成課程学生の見学を受け入れて
森本 祥子

——高校生の文書館見学——



2024年10月10日、島根県立松江南高等学校探究科学科2年生10名による、本郷本館の見学がありました。
→訪問記はp.5



東京大学文書館
The University of Tokyo Archives

モノ・ヒトのフィールドから ―着任によせて―

東京大学文書館 学術専門職員 寺島 宏貴

1. アーカイブズ学とフィールド歴史学

筆者は学部・修士課程を中央大学の史学科・文学研究科で、博士課程を本学の総合文化研究科で過ごした。修士1年目の2004年4月、友人に誘われ学習院大学で開催されたアーカイブズ学会設立大会へ出席し、その年の夏休みは日々、大学院の単位取得も兼ねたアーカイブズカレッジ長期の受講のため戸越時代の国文学研究資料館に通った。

当時専攻していた幕末・明治の政治史にもとづき、カレッジの修了論文では羽林家の家格である久世家に蓄積した江戸から明治におよぶ公家文書のシリーズから、資料群構造を考えた。諸先輩と新たに目録カードを作った中大所蔵分を対象に、他機関分との比較資料群分析の必要や、記入しやすいカード形式などを総合的に論じて久世家文書のアーカイブズ学的転回だと意気込んだけれど、保存環境の問題には手が届かなかった。

平易な記録作業を望んだ背景には2002年の秋から参加した、長野県栄村をはじめ中山間地の家々に所蔵された近世・近代文書の調査（現状記録～整理・目録作成～撮影）がある。同じ北信の出身地に近い栄村での研究者有志らとのフィールドワークは帰省も兼ねていたが、2006年から2011年にかけて人文・自然科学の共同研究（総合地球環境学研究所、京都市）も実施された。そ

の終盤に発生した長野県北部地震（2011年3月12日）に伴い民具学プロパーも加わった資料保全を経て、今も活動が続いている。温泉・山菜・地酒とともに。

古文書（学）が好きなこともあり、アーカイブズ学会設立大会で話を聴くうち、文書館の仕事にふと興味が湧いた。それに、フィールド歴史学での「文理融合」を模索した記憶から他の研究領域の人々はどうふるまっているのかと、ついよそ見をしたくなる。そうした意識が働いたのか、博士課程に進んだ2007年から2024年までの間、おもに国立国語研究所（立川市）、国立公文書館（千代田区）、再び国語研でアーカイブズの職務を担った。

2. 竹橋・立川から柏へ

これらの任地のうち、国立公文書館では歴史公文書等の展示を主業務とした。ときに明治150年（2018年）記念事業のようなビッグウェーブや大臣レク（公文書管理担当相への説明）・視察対応に張合いを感じつつ、三度の企画展を受け持った。ただ、もよりの東西線竹橋駅まで多摩東部の自宅からの遠さも手伝い、業務の区切りを機に国語研へ出戻り、資料のエンドユーザから再度「ガワ」の仕事に移った。

国語研の研究資料は1948年の開所から現代までに蓄積した方言調査票、談話、語彙カード、各媒体による音声・映像や記録データ、様々な測定機器に至るまで幅広い。一度目の在職時は各プロジェクトの資料群の編成・概要記述、二度目は研



雪深い栄村で編まれる「つぐら（猫の家）」



COVID-19に伴う企画展の延期（国立公文書館、2021年1月）

究所にとって初めての「研究資料室収蔵資料目録」(アイテムリスト)を作った。この目録はフォンド順にシートをくっつけた簡素な表で、記述項目は東大文書館ほかのデジタルアーカイブを廻り、皆で吟味した。

このほかに各研究室からの資料移管、共同利用型共同研究を主とする所内外からの閲覧・レファレンスに応じた。共同利用によって、デジタル化されたものを含む過去の資料が新たなリソースに生まれ変わるプロセスはアーカイブズの実用性を高めた。のべ10年の在職を通じて、アーカイブズの知をどんな現場でも道具として使えるようにすることが大切だと思った。所外では、図書館総合展という熱気に満ちた場で新しい世界に触れながら、研究資料の「営業」用コンテンツを制作した。

さて、在職年限が見えていた昨年(2024年)の春、我孫子市白樺文学館の学芸員に請われて多摩を離れ、ひとまず手賀沼のほとりの同館で彼の補佐におさまった。白樺文学館は学習院高等科同窓の志賀直哉、武者小路実篤、柳宗悦ら「我孫子白樺派」¹の文士にまつわる草稿・書画、彼らと親交を結んだバーナード・リーチらの作陶、柳の妻兼子所用のピアノといったコレクションを温かな意匠のもとに(動態)展示する。斜向かいの志賀邸跡・書斎とともに「文アル」「文スト」ファンも多く訪れる。近隣に記念館のあるジャーナリスト杉村楚人冠ほか、近代日本の多くの教養人にもゆかりをもつ我孫子は以前から見知っていて、後述する新聞史の研究にも適した空間である。ただ、財政事情をはじめモノの保存・活用両面にとって如何ともしがたい壁もあった。

浄土信仰に立ち、手仕事の美がやどる日用品としての「民藝」を柳宗悦が提唱してから今年(2025年)で100年を数える。駒場には柳の設立した日本民藝館はあっても、民藝運動発祥の地の我孫子に民藝店はない。手賀沼は山階鳥類研究所や鳥の博物館でも知られているが、我孫子白樺派のように人にとっても渡り鳥の巣の趣がある。筆者も、半年ほどで柏分館へ転出した。

3. 本学との縁について

ところで、本学本郷キャンパスには中学生の頃に初めて観光のため、高校生になって総合研究博

物館「ニュースの誕生」展(1999年)での明治期新聞錦絵の観覧のため、上京して訪れた。総合文化研究科への進学後は、指導をあおいだ三谷博先生の一言で図らずも明治新聞史に研究の軸足を移した。

アーカイブズとのかかわりでは、博士1年目に履修した明治期民事判決原本ゼミ(法学政治学研究科、2007年度)を挙げたい。全国10の国立大学法学部のうち最高裁から東大へ受け入れた分の判決原本は当時、春日門付近にあったプレハブ(現ダイワユビキタス学術研究館)に一時保管され、のちに国立公文書館へ移管された。新田一郎・和仁陽両先生の手引きで多分野の学生が「民事判決原本データベース」(国際日本文化研究センター、京都市)も頼りに、争論地の絵図などの附属文書で膨れ上がった簿冊を繰った。モノとその群に対する勘を養いながら事案を探究する、ありそうでない機会となった²。

とはいえ多摩に居座っていた筆者は史料編纂所での閲覧や共同研究を除けば、そう頻繁に通学しなかった。だが駒場の酒場となると話は別で、「さわやか」「英香」「かこ」がゼミ終了後の三大定宿。このうち「英香」と、二次会の定番だった「かこ」はとうにない。

学内のものごととも学外をいりどる赤提灯も一見、自明の習慣や規範からなる「環境」³である。環境の重なりへの正確な理解によって「切れ目なき歴史」⁴へ二歩、三歩近づくことができる。失われ、目に見えなくなった事柄も含めた普段着の環境＝ヒトをめぐる情報を伝えるモノの保存・提供・営業は、文書館の大事な役目であろう。モノが好きであるとともに、ヒトへの敬念を持たなければならぬ一学外で、そんな言葉に接した。学芸職に向けてのようだが、アーキビストにもいえそうである。

¹ 大正期の「白樺派」のうち、手賀沼周辺へ移り住んだ人々を文学館ではそう呼ぶ。

² 修士課程まで師事した中大の松尾正人先生は民事判決原本の保存について要所要所でバックアップされていた(松尾「司法資料の利用・保存とその運動」『地方史研究』243、1993年ほか)。

³ 井上勲編『日本史の環境(日本の時代史29)』(吉川弘文館、2004年)あとがき。

⁴ 石井紫郎『「捨てる神」と「拾う神」』(林屋・石井・青山編『図説 判決原本の遺産』信山社、1998年・初出1996年)、89頁。

特定歴史公文書等の劣化調査

東京大学文書館 助教 秋山 淳子

東大文書館では、2015 年以降全学から法人文書を「特定歴史公文書等」として移管受入し、現在1万点を超える規模となった。開館10年を迎え、その適切かつ円滑な保存や修復処置のため、保存・修復専門業者の協力のもと、2023～24 年度にアイテム単位での劣化状況悉皆調査を実施した。調査方法は、全点を手に取る目視での情報採取として、次の調査項目を設定した（表1）。

まず、資料の構成要素（形態、紙種、イメージ材料）を記録し、劣化要因・程度（劣化状態、劣化度、劣化数量）を調べた。「紙種」・「イメージ材料」・「劣化状態」項目は1アイテムに複数種類が混在するため、分量の多い順に3種まで採録した。また、「劣化程度」は業者判断により1:軽度<2:中度<3:重度で、「劣化数量」は1:少(30%以下)<2:中(30～75%)<3:多(75%以上)で表示した。次いで、業者による物理的処置や代替化等の「総合的緊急度」評価も三段階で数値化した。処置の要否判断基準は、資料の可読性や閲覧提供への耐性におき、現状の書庫環境下で酸性劣化や金属腐食等が確認できても、当面の利用提供に支障がない場合「処置不要」という方針を採用している。さらに、これらの項目で表現しきれない事象は「特記事項」に記録した。

今回調査の成果は、まず1万点をこえる特定歴史公文書等について、アイテムレベルで詳細情報が把握できた点が大きい。とくに具体的な劣化

状態・要因は専門的視点からの判断が必要であり、紙種およびイメージ材料の組成情報とあわせ、資料管理の基礎資料が整備されたことは重要であった。さらにシリーズ・年代域・作成者等の要素別分析をすすめ、所蔵資料群の特性把握に努めるとともに、今後の受入資料を含めた管理体制に活用していきたい。

くわえて、劣化程度および措置の緊急度評価を数値化できたのは、研究上興味深い成果であった。従来、資料の利用頻度や劣化程度をもとに館内で処置対象を選定、処置していたが、今回依頼した専門的視点での業者評価を分析し、これまでの対応の妥当性を検討した結果、ほぼ適切な優先順位での判断であったと確認できた。また、「劣化度」・「劣化数量」が低値であるのに「総合的緊急度」の高い資料の存在など、新たな視点から課題を把握することもできた。例えば銀鏡化が確認された資料は、他の部分の劣化がなくとも処置の緊急度が高いが、シリーズをこえて分散していた。今回の調査データを横断的に活用し、計画的な対策へつなげることが次の課題である。

今回は登録済の特定歴史公文書等のみが対象であったが、はじめてアイテム単位で悉皆調査を実施できた。今後は歴史資料等にも拡大し、所蔵資料全体の管理と保存・修復の基礎データ整備・活用をすすめていきたい。

表1 特定歴史公文書等の劣化調査項目と記載例

形態	紙種 * 枠1/2/3	イメージ材料 * 枠1/2/3	劣化状態 * 枠1/2/3	劣化度	劣化数量	総合的緊急度 (処置、撮影)	特記事項
(例)	(例)	(例)	(例)	(数値化)	(数値化)	(数値化)	(例)
平綴じ	和紙系	墨	銀鏡化	高:3	多:3	高:3	綴じ紐緩み
ソフトカバー	わら半紙	印刷インク	本紙変色	中:2	中:2	中:2	綴じ紐切れ
ハードカバー	トレーシング	手書きインク	本文変退色	低:1	少:1	低:1	表紙破断
フラットファイル	ペーパー	没食子インク	表紙損傷				表紙欠失
ドッチファイル	その他洋紙	青焼き	虫損				綴り外れ
リングファイル		感熱	インク焼け				本文紙破断
スクラップブック		こんにゃく版	折れ、シワ				水損跡
アルバム		湿式	破れ				要撮影
		鉛筆	レッドロット化				汚損大
		写真					

* 混在の場合、多い順に枠1から記載。

文書館を訪ねて

島根県立松江南高等学校 教諭 柳楽 明久

本校は、文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業指定校として第Ⅰ期5年目を迎えます。各学年、探究科学科2クラス、普通科5クラス、全校で782名が在籍し、創立62年の歴史を持つ学び舎で、生徒たちは文武両道の学校生活を送っています。

さて、今回文書館には探究科学科人文社会科学コース24名のうち10名と引率の私が訪問させていただきました。探究科学科の先端科学技術研修の一環として、今年度は10月10日午前に東京大学本郷・弥生・浅野のキャンパスの計6研究室に訪問させていただきましたが、そのうちの1研究室として訪問させていただきました。当日は秋山先生にお話をいただき、「アーカイブズを使って歴史を調べる」という題で文書館とはどのような役割があるのか説明いただきました。また、島根県ゆかりの梅謙次郎先生や小泉八雲先生に関する貴重な資料を手にとって見させていただき有意義な時間を過ごさせていただきました。

本校のSSHのプログラムは、データサイエンスを生かし文理融合を意識したものを考えていますが、いわゆる文系の訪問先が悩みの種でした。そもそも、本校の先端科学技術研修の目的は何なのか。目的の一つは、先端科学技術に触れ研究者の話を聴くことで、科学技術に対する興味・関心を高めること、また、最前線で活躍する研究者との交流等を通じて、科学技術の分野で活躍する人材のロールモデルを得ることで、自らの将来の在り方や生き方を考えることです。「先端科学技術」だからどうしても理系よりの訪問先になりがちですが、文系よりの訪問先として「文書館」が本校の探究科学科・人文社会科学コースに向いているのでは、と思った点は2点でした。

1点目は文書館の仕事は先端的であると思ったからです。WEBページを拝見すると、東京大学の歴史がわかる資料が非常に精細な状態で閲覧できます。その膨大な資料がまだ増え続けているということは成長を続けている、先端的なものと言えるのではないのでしょうか。アーカイブズの技術やシステムも最新です。2点目は研究の現

場とそこで活躍される研究者がいる、という点では東京大学の研究機関ですから間違いないだろうと思ったからです。私たちが何か研究を始めようとする、必ず調査から始まります。文書館では東京大学について知りたいことがわかる資料がたくさんあります。その資料の価値をかけがえのない「1点ものの資料」として伝えておられ、生徒には将来の職業として文系の研究者という選択肢が目に見える形になり、ロールモデルを得ることができたと思います。

実際に訪問して感じたことは、文書館に保存されている資料は「歴史的エビデンスである」ということでした。資料を研究者が過去の出来事を調査研究するためのエビデンスとして位置づけること、それによって価値が見いだされ、それらをつなげていくことで東京大学の歴史と価値が形成される。さらに、東京大学の現在を理解し、将来を考える基礎となるものとなっている、と思いました。生徒がSSHのプログラムで行っている課題研究の手法として、エビデンスを用いながら探究的な活動を進める点で生徒たちに参考になると思います。

文書館訪問後のレポートを見ると生徒からは、「データを複数合わせて考えることの重要性がわかった」「歴史的に保存する価値のあるものを管理保存するのが文書館だとわかった」「もっと文書館の存在を強調すべきだ」などの記述がありました。初めは「文書館とは？」と表情の硬かった生徒も、笑顔で講義を受けていた姿が印象に残っています。みんな東京大学文書館の魅力や、文系の研究の魅力を感じ取ってくれたと思っています。

最後に、今回の訪問で当日対応や日程の調整をしていただき、文書館の先生方に大変お世話になりました。感謝申し上げます。

業務日誌（抄） （2024年8月～2025年1月）

※(本): 於本郷本館、(柏): 於柏分館、(オ): オンライン

- 8/2 書庫に害虫防除剤散布 (本)
8/5 資料移動および再配架作業 (柏)
8/7 森本、自然科学系アーカイブズ研究会報告(～8日)
書庫に害虫防除剤散布 (柏)
8/9 森本、全史料協打合せ (オ)
8/13 夏季休業 (～14日)
8/19 森本、アーカイブズ研修Ⅰ出講 (国立公文書館)
8/20 第114回館員打合せ (柏)
8/21 書庫に害虫防除剤散布 (柏)
8/22 環境整備チームによる書架清掃 (柏)
8/28 森本、東京都公文書館セミナー出講 (特別区職員研修所)
8/30 収蔵庫のダクト部分から雨水吹き込みのため、応急処置 (本)
書庫に害虫防除剤散布 (本)
9/3 森本、内閣府公文書管理委員会 (オ)
書庫に害虫防除剤散布 (柏)
9/10 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席 (オ)
秋山、柏図書館ギャラリートーク
9/11 収蔵庫の空調を、26度、風量微風に修正 (本)
9/12 産業医巡視 (柏)
秋山、柏図書館ギャラリートーク
9/13 秋山、百五十年史編纂室研究会陪席 (オ)
9/20 教育学研究科・教育学部図書室より資料寄贈 (F0083 教育学部図書室旧蔵資料)
9/24 第115回館員打合せ (本)
9/25 映画フィルム保存状態調査 (本)
藤原彰夫様より資料寄贈 (F0323 藤原彰夫関係資料)
9/27 武藤理佳様より資料寄贈 (F0325 武藤多作関係資料)
研究倫理セミナー受講 (オ)
9/30 井上いぶき学術専門職員退職
書庫に害虫防除剤散布 (本)
10/1 寺島宏貴学術専門職員着任
オンキャンパスジョブ開始
収蔵庫工事 (本)
10/2 特定歴史公文書等劣化調査研究会 (オ)
10/3 資料寄贈(F0324 1980年文学部卒業生(女性)関係資料)
10/4 森本、部局女性人事加速5カ年計画意見交換会(オ)
10/8 秋山、百五十年史編纂室会議陪席 (オ)
健康と医学の博物館内にて展示
「虎列刺大流行 ～そのとき、東京大学で何が起きていたか～」終了
10/9 村上、東京大学附属図書館 研修プロジェクト「三康図書館見学会」参加
10/10 健康と医学の博物館内にて展示「学生生活とスポーツ：田口文太資料から」開始
島根県立松江南高等学校見学対応 (本)
環境整備チームによる書架清掃 (柏)
森本、アーカイブズ研修Ⅲ出講 (国立公文書館)
10/15 避難訓練 (柏)
10/16 森本、150周年記念3館合同展示WG出席 (オ)
10/17 整理済み資料の移送 (本→柏)
10/18 令和6年度内部監査
10/19 東京大学ホームカミングデイ 2024 参加
10/21 森本、工学部・総合試験所事務文書確認 (工学部図書館)
10/23 防災訓練 (本) (柏)
10/24 森本、ビジネス・アーキビスト研修講座出講
元、情報セキュリティ研修 (オ)
10/25 柏一般公開 (～26日)
アルバム編集室より資料追加寄贈 (F0271 東京大学アルバム編集会関係資料・F0025 史料室アルバム)
10/28 森本、NHK・百五十年史打合せ
森本、秋山、相談支援研究開発センターFD・SD実施受講
10/29 第116回館員打合せ (柏)
10/30 菊井明子様より資料寄贈 (F0326 菊井維大関係資料、F0327 武内金平関係資料)
10/31 書庫に害虫防除剤散布 (本)
11/2 元、デジタルアーカイブ学会第9回研究大会発表
11/6 国立民族学博物館視察対応 (柏)
11/7 森本、先端研経営戦略企画室資料調査
元、イギリス出張 (～15日)
11/8 書庫669の空調OFF (柏)
11/11 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席 (オ)
11/12 森本、EASTICA セミナー出席。小澤、セミナー聴講 (オ)
11/14 香港大学PDAS視察対応 (柏)
田中美江子様より資料寄贈 (F0284 大学関係記念品)
11/18 森本、アーカイブズ研修Ⅲ出講 (国立公文書館)
11/19 森本、公文書管理委員会出席 (オ)
11/20 森本、全史料協大会出席 (～22日)
秋山、南原家より資料追加寄贈 (F0139 南原繁関係資料)
11/21 資料燻蒸 (柏。～12/12)

- 11/26 第117回館員打合せ（本）
元、2024年度情報セキュリティ監査（オ）
- 11/28 森本、文書館運営委員会（安田講堂）
- 11/29 村上、財会システム刷新プロジェクト説明会参加（オ）
書庫に害虫防除剤散布（本）
- 12/4 元、国立歴史民俗博物館出張
佐藤慎一様より資料追加寄贈（F0164 佐藤慎一関係資料）
- 12/5 韓国国立民俗博物館視察対応（柏）
島ひろ子様より資料追加寄贈（F0304 島成郎関係資料）
- 12/10 秋山、百五十年史編纂室会議陪席（オ）
- 12/12 産業医巡視（本）
寺島、附属図書館研修プロジェクト「図書館・室の環境管理（資料保存研修）」参加
- 12/13 森本、文化資源学講義出講
元、小澤、2024年度第2回情報セキュリティセミナー参加（オ）
井上俊治様より資料寄贈（F0328 井上俊治関係資料）
- 12/19 環境整備チームによる書架清掃（柏）
- 12/24 第118回館員打合せ（柏）
- 12/26 書庫に害虫防除剤散布（本）

- 1/14 秋山、学士会資料調査
森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席（オ）
元、全史料協・令和6年度公文書館機能普及セミナー出講
- 1/15 森本、内閣府公文書管理委員会出席（オ）
医学図書館より資料寄贈（F0329 医学図書館寄贈資料）
- 1/16 元、小澤、国際シンポジウム「研究データの持続可能なライフサイクル構築へ向けて」（京都大学）参加
- 1/17 森本、秋田県公文書館主催研修会出講
元、国立民族学博物館主催ワークショップ報告
- 1/20 特定歴史公文書等劣化調査研究会（オ）
- 1/21 森本、部局女性人事加速5カ年計画意見交換会（オ）
- 1/24 埼史協視察対応（柏）
- 1/27 元、第3回三重県公文書等管理審査会出席（オ）
秋山、学士会資料調査
- 1/28 第8回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー出席（オ）
- 1/29 第119回館員打合せ（本）
研究倫理セミナー受講（オ）
- 1/30 書庫に害虫防除剤散布（本）
- 1/31 森本、全史料協打合せ（オ）

資料の公開について (2024年8月1日～2025年1月31日)

上記期間内に整理を終え、新たに公開した特定歴史公文書等ならびに歴史資料等の資料群は、以下のとおりです。

※概要記述とアイテムリスト（目録）、既存資料群へのアイテム追加は、当館のデジタル・アーカイブからご確認いただけます
(<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>)。

特定歴史公文書等

事務	
S0780	東日本大震災対応（財務関係）
S0781	連絡調整会議
S0783	大学院及び学部関係資料
S0784	事件・事故対応
S0785	大学発新産業創出拠点プロジェクト
S0786	世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）
S0787	学術推進支援室事務
S0788	宿舍管理
S0791	資金管理・運用

大学院・学部

S0782	教育学部附属中等教育学校 式典
S0790	法学政治学研究科 東日本大震災対応

全学センター

S0789	政策ビジョン研究センター運営委員会
-------	-------------------

歴史資料等

総長・役員・教員資料

F0127	松原行一関係資料
F0321	佐藤三吉関係資料
F0323	藤原彰夫関係資料

学生資料

F0325	武藤多作関係資料
F0327	武内金平関係資料

その他

F0269	国立大学協会資料
-------	----------

今期間中も個人や団体から多数の資料を寄贈いただき、ありがとうございました。引き続き、東京大学に関する資料・学内刊行物のご寄贈をお待ちしています。

文 書 館 ト ピ ッ ク ス

EASTICA・香港大学共同アーキビスト養成課程学生の 見学を受け入れて

2024年11月14日、国際アーカイブズ評議会東アジア地域支部（EASTICA）が香港大学と共同で運営しているアーキビスト養成課程の学生さんたち30人ほどが、EASTICA 特別顧問兼名誉会員でもある同課程のサイモン・チュー教授と EASTICA 事務局長イ・サンミン博士の引率で、当館に見学に訪れました。この養成課程には、ディプロマコース（Postgraduate Diploma in Archival Studies (PDAS)、単位取得制12ヶ月）とサーティフィケートコース（Postgraduate Certificate in Archival Studies (PCAS)、集中講義3週間）の2つのコースがありますが、今回当館を訪問したのは、前者のPDASの学生さんたちです。

同課程では、できるだけ多くのアーカイブズ機関を実地に見学することを重視しているということで、今回の当館への見学は、EASTICA セミナーが日本で開催されたことに合わせて計画されたものでした。他にもいくつか日本のアーカイブズ機関を視察したときいています。

収蔵施設含めた当館の全体像を見てもらうため、訪問先は柏分館に設定しました。柏図書館内のセミナールームで当館の概要説明をしたのち、別棟の文書館に移動して収蔵庫を案内するという行程を組みました。また合間には、図書館で行っている文書館展示も見てもらうことができました。森本・秋山が説明対応に当たりましたが、アーカイブズに関する「前提・常識」が共通でないなか、そして言葉の障壁があるなか、限られた時間で要点を押さえて説明することは容易ではありません。それでも学生さんたちからは、特に評価選別権がアーカイブズ側にないことについて鋭い質問が出されるなど、彼らの高い能力や知識、積極的に見学の機会を活かそうという意欲に助けられ、私たちも改めて自館、ひいては日本のアーカイブズのあり方を振り返るよい機会となりました。また、引率のお二人の先生からもさまざまな質問が出され、出発時間ギリギリまで意見交換が止まりませんでした。



香港大学の柏分館訪問

当館は公文書管理法に基づいて組織アーカイブズを管理しつつ、より広く関連歴史資料も収集保存しています。こうした日本の公的機関アーカイブズの典型例を見ることが、これから国際的に活躍していくPDASのみなさんの視野を広げるのに少しでも貢献できたとすれば、とても嬉しいことだと感じました。（森本祥子）

東京大学文書館ニュース 第74号

ISSN 0915-3284

発行日：2025年3月31日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03(5841)2077（直）

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html>



印刷所：松枝印刷株式会社



東京大学文書館
The University of Tokyo Archives